

新春座談会



丹波篠山国際博 日本の美しい農村、未来へ

対談者のプロフィール

新年あけましておめでとございます。
「大阪・関西万博」に合わせ、2025年4月1日から2026年3月31日まで市内各地で「丹波篠山国際博 日本の美しい農村、未来へ」を開催します。そこで、今回の座談会では、開幕まで100日と迫った「丹波篠山国際博」について、実行委員の皆さんをお迎えし、国際博での取り組みや、国際博開催に向けての夢や目標について、市長、議長と語っていただきました。

（コーディネーター）秘書広報課長 小林七子



丹波篠山国際博
実行委員長
小田垣昇さん



丹波篠山国際博
副実行委員長
畑弘恵さん



丹波篠山国際博
心トキメキ部会長
金崎美和さん



丹波篠山国際博
心トキメキ副部会長
中島秀豊さん



丹波篠山国際博
クリエイティブ部会長
加古勝己さん



丹波篠山国際博
クリエイティブ副部会長
辻井奈緒子さん

小林 まず最初に酒井市長、上田市議会議長にごあいさつをいただきます。

市長 今年は丹波篠山国際博の年です。今日は国際博に向けて活躍いただいている丹波篠山国際博実行委員会の皆さんにお集まりいただき良かったです。皆さんが今取り組んでおられること、それに向けての心意気を聞かせてほしいと思います。

議長 丹波篠山国際博を通して、市民の方や訪れる方にとって丹波篠山の魅力を伝えていくのが大切だと思っていますし、この国際博でも一つステップアップする節目ではないかと思っています。市議会も一緒に進ませていただきたいと思いますので、よろしく願います。

小林 続いて、丹波篠山国際博実行委員会の皆さんから、取り組んでいただいている内容を簡単に紹介いただきたいと思います。

小田垣 私は黒豆屋の（株）小田垣商店を営み、今回丹波篠山国際博実行委員長を務めています。丹波篠山は昔、ド田舎というイメージでしたが、今やおしゃれな田舎と言われ、私たちが誇る農村です。丹波篠山には丹波黒大豆を始め、丹波焼、デカンショ祭、蛸が飛び田園風景、丹波霧など世界へ誇るモノ・コト・トキがあります。これらを磨いて国内や世界からの来訪者へ披露し、来訪者が丹波篠山

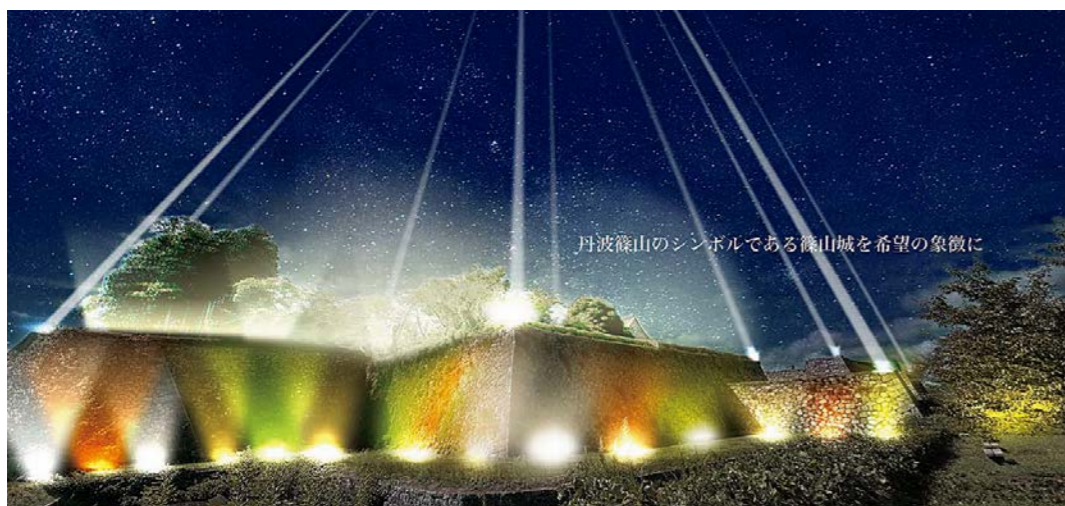
ファンになって地域も活性化する。また、交流人口を増やしてこの美しい農村を未来へつなげていきたい。そういう思いで、みんなとともに取り組んでいます。

畑 私は丹波篠山国際博副実行委員長として、SNSによる広報を担当しています。イベントやお祭りなどに行くと、どこに行っても歓迎され、すごく楽しいなと思っています。丹波篠山は、お祭りイベントが本当に多く、私の作業が追いつきませんが、良い形で皆さんに知ってもらう機会になればよいなあと思います。

金崎 心ときめき部会長をさせていただいています。私は雲部地区でハンドメイドの雑貨屋さんをしており、ハンドメイドを通して地域を活性化させようといういろいろな活動に取り組む中で、丹波篠山がにぎわうようなイベントができればと思っています。皆さんが心ときめくようなイベントが楽しくできればと思います。

中島 心ときめき副部会長の中島です。私は、丹波篠山味まつりの事務局をしていたのがきっかけで、丹波篠山に移住しました。丹波篠山国際博では4月1日から5月6日まで食のイベント「つまいもんお城横丁」を行い、丹波篠山のおいしい食とお酒を楽しめる企画を考えています。





能と映像・空間照明による伝統と現代アートの演出

オープニングイベント

篠山城大書院 プロジェクションマッピング

丹波篠山国際博のスタートを彩る、大規模なプロジェクションマッピングが開催されます。篠山城大書院を舞台に、伝統的な能楽とデジタルアートの映像を融合させた「デジタル能」などが行われるほか、場内の石垣や大書院に映像を投影。歴史ある空間に最新技術が組み合わせられた、幻想的な空間が広がります。

開催期間 2025年4月1日(火)～5月6日(火)

開催場所 篠山城大書院

加古 私は4年前からクラフトヴィレッジ製作委員会を立ち上げ、美術工芸の文化が丹波篠山に根付くような取り組みをしています。私はクリエイティブ部長をさせていただき、市内全体で工芸の魅力を伝えていくクラフトウィークというイベントができないか検討をしています。また、「未来へつなぐ」をイメージしたモニユメントの制作にも取り組んでいます。

辻井 私はOZシアター(南矢代)を5年前に建設し、ミュージカルやダンスのレッスン、劇団の公演を行っています。今回、私はクリエイティブ副部長をお世話になり、4月5日に開催するオープニング式典について取り組んでいます。第一部は市民ミュージカルの出演者の人たちで丹波篠山に伝わる昔話「鼻の助太郎」のお話を上演

す。1年通じて食の感謝フェアと銘打って、飲食店の皆さんとともに丹波篠山を盛り上げることも企画しています。

小林 盛りだくさんの取り組みをされますが、畑さんはどのように情報発信されますか。

畑 私はインスタグラムとフェイスブックを使って、市内外に向けて発信します。グルメやイベント情報など、丹波篠山のよいところを発信していきたいと思っています。

小林 それでは次に丹波篠山国際博を通じて、丹波篠山がこんなふうになればよいなあという夢をお聞かせいただけますか。

小田垣 二拠点居住や国際博をきっかけに、市外の方と市民との交流が増えて活性化し、未来まで丹波篠山が元気であり続けることを期待しています。

畑 各団体が未来に向けて、ステップアップしていけたらよいなあと思います。

金崎 いろいろな方から丹波篠山よかったよ、何回も行ってみたいと言ってもらえるような、そんな丹波篠山になることを願っています。

中島 南広場があまり活用されていないので、今回を機会に何かイベントなどをするような場になればうれしいです。

加古 丹波篠山国際博を通じていろいろな方とつながりができることはすごくよいことだと思います。

辻井 丹波篠山は文化もすごく見ごたえがあることを知っていただき、それがどんどん広がって継続していけば、すごくワクワクできると思います。

議長 丹波篠山国際博は、先人や私たちの世代が行ってきたことを次の世代へのバトン渡しの場となるような気がします。4万人規模のまちでこのようなイベントを、中心市街地だけでなく5つのエリアで行うことは、私たちのまちに誇りをもてる一つの機会だと思っています。また、新しい挑戦を始めるきっかけになるかもしれません。

小林 最後に酒井市長と小田垣実行委員長に、市民の皆さんへの呼びかけの言葉をいただきたいと思います。

市長 市内の200を超える地域や団体の皆さんが参画されて盛上げていただ



らさせていただきます。ただいま最大約30店舗を考えています。また、会場はお城南側にある南広場で、10時から11時からスタートで20時または21時までの予定です。

中島 「つまいもんお城横丁」での出店者の募集は後日広報紙でお知らせさせていただきます。

小林 クリエイティブ部会での具体的な取り組みをお聞かせいただきませんが、心ときめき部会で決まってる内容があればお話しいただけますか。

中島 「つまいもんお城横丁」での出店者の募集は後日広報紙でお知らせさせていただきます。

小田垣 4月1日から5月6日の夜、ライトアップした篠山城で能と光のプロジェクションマッピングを行い、お城から空に上がる光は市内各地から見える予定です。お城南広場では石垣面に丹波篠山国際博オリジナル映像が流れ、飲食ブースのお城横丁で賑わいを作ります。また、初日の4月1日はお城で能楽師の上田宣照さんが光を背景に舞ってくださいいます。丹波篠山は食の聖地といわれ、伝統的で価値ある農と食があります。

します。また、子どもたちにデカンショ節は世界に誇れるものだと伝えることを伝えたいと思います。第二部ではデカンショ節でのダンスコンテストを開催し、国際博を盛り上げたいと考えています。

小林 クリエイティブ部会での具体的な取り組みをお聞かせいただきませんが、心ときめき部会で決まってる内容があればお話しいただけますか。

中島 「つまいもんお城横丁」での出店者の募集は後日広報紙でお知らせさせていただきます。




丹波篠山国際博を一緒に盛り上げるサポーターを募集します

対象 企業、各種団体または個人

活動内容

- ・丹波篠山国際博関連事業やイベントなどの活動サポートや情報発信
- ・丹波篠山の魅力をチラシやSNSで発信
- ・のぼり旗などを掲示し、丹波篠山国際博のPR発信

申し込み方法 右記の2次元コードからお申し込みください



問い合わせ 丹波篠山国際博実行委員会 (丹波篠山市観光交流部国際博担当) ☎558-8891

新たな林業

「自伐型林業」

里山の未来を拓く

近年、林業の担い手不足が課題となる中、少ない人数で比較的簡単な装備で林業ができ、副業など幅広い働き方も可能となり、新規参入がしやすいなどとして注目されている「自伐型林業」。本市では、丹波篠山市森林組合など林業事業者による森林管理に加え、個人でも新たに林業に取り組みやすく、環境に配慮した自伐型林業の手法を環境創造型林業として推進してまいります。

今回は、自伐型林業の特徴や市が行おうとする取り組みなどを紹介します。

問い合わせ 森づくり課 ☎552・1117



自伐型林業に必要なショベルカーを使った作業道づくり



作業道を使った間伐材の搬出



幅2～2.5m程度の作業道

森林と林業の現状

本市の森林面積は28,178haと総面積の約7割を占めています。このうち植林されたスギ・ヒノキの人工林面積は7,960ha。植栽されて40年以上経過したものが全体の7割を占めています。

しかし、木材価格の低迷などで林業の採算性が低下している現在、山への関心が低下し、山林の手入れも十分に行われなくなっています。これに伴い、林業従事者も減少し高齢化が進みました。

人工林は植林後、人の手入れが欠かせません。手入れが行われないと、林内に日光が届かなくなり、下草が育たず保水力が低下。大雨時には森林から直接水が流れ出し、災害につながる恐れがあります。また森林に入らないことで、本来森林内で暮らす野生動物が里に出やすくなり、農作物の被害につながってしまいます。

森林の役割を見直す時です。今一度、森林に目を向け、森林の価値を再認識しましょう。

小さな林業 自伐型林業

奈良県吉野地域では、山林を維持管理し、数百年山を生かし続けることを生業とする「山守」が知られます。現代版の「山守」といえるのが、自伐型林業で、それは高知県で生まれました。

自伐型林業は森林所有者に代わり、少量多間伐を繰り返しながら、100年、200年の森をつくり出していきます。間伐した木も少しずつ搬出しますので、2.5m程度の作業道があれば十分です。この作業道が小さければ、森林の環境に与える影響も少なく済み、持続可能な林業が可能となり、結果災害に強い森づくりにつながります。

普及に向けて

市では、森林所有者の皆さんに、自伐型林業を行うと森はこうなる」と、モデル林を整備しました。モデル林は、大山上の個人所有6.4haの人工林。㈱デカンシヨ林業が中心となっており、9月からモデル林作りを開始しました。

自伐型林業家の第一人者・徳島県の橋本光治さんを講師に招き、道づくりのコツを教えてもらい、林内に作業道380mを完成させました。また、丹波林産振興センターの西脇誠理事長から選木を学びました。市内での自伐型林業の第一歩です。この活動を広げていくには、やはり活動する森林が必要で、自ら管理できなくなった森林があり、自伐型林業に興味のある方は、森づくり課に相談してください。

森林所有者と自伐型林業家の契約に市が参画します

それぞれ集落には、手がつけられていない山林が多くあり、間伐や適切な管理が必要となっています。そこで、このような森林の所有者と、自伐型林業家の間に市が参画する形での「森林管理協定」を結ぶことで、それぞれが安心して、森林管理が進むよう取り組んでいただくこととします。

来年度から進めていく予定ですので、詳細などは森づくり課にお問い合わせください。

INTERVIEW 林業は丁寧な道づくりから



自伐型林業家 橋本光治さん

自伐型林業では、山を壊さない道作りが一番のかなめです。現地踏査を行い、2トントラックが通れる幅2.5メートル程度の道を丁寧に作り付けることで、切り時の木を切り出すことができます。また、作業道は豪雨時などの土砂災害を防ぎ、軽減する役割も果たしてくれます。

最近、林業に取り組む方が少しずつ増えてきています。自伐型林業は、大きな機械がいらず低コストで行うことができますので、Iターンの方が来て林業をしてくれれば、地域活性化にもつながると思います。山の荒廃を食い止めるためにも、自伐型林業家が増えることを願っています。



林益郎さん(自伐型林業家)【右】

自伐型林業家の声

山主さんが植林から育林、除伐、間伐と手を入れてこられた山を他人に任せるとするのは、相当の決断が必要だと感じます。大事にしてこられた山に最小限の伐開幅(ばっかいはば)^{*1)}で作業道を入れ、植物に出来るだけ負荷のかからない形で道づくりに取り組んでいます。作業道も完成し、今後は搬出間伐をしながら残したい木を決めて間伐を繰り返し行っていきます。

^{*}1)道をつくるときに木を伐ることのできる幅

森林所有者の声

高齢になり森林の維持管理が難しくなり、どうしようと思っていた矢先、モデル林の話をいただきました。長期間にわたり管理をしてもらえ、作業道も小規模で崩れにくく安心していきます。将来、他の地域でも自伐型林業が盛んになり、事業として成り立っていくことを願っています。

西垣重夫さん